

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士（医学）	氏名	福島 拓
	主査	教授	秋 田 弘 俊
審査担当者	副査	教授	浅 香 正 博
	副査	教授	佐 藤 典 宏
	副査	准教授	篠 原 信 雄
	副査	教授	清 野 研 一 郎

学位論文題名

Chronological improvements in overall and progression-free survival in patients with metastatic colorectal cancer following first-line treatment with FOLFOX plus bevacizumab compared with FOLFOX alone

(未治療転移性大腸癌に対するFOLFOX+bevacizumab療法の年代順的生存期間改善に関する研究—FOLFOX単独療法との比較—)

Bevacizumab の承認にあたっては、国内治験は安全性確認試験のみで、特に、本邦における有効性に関して十分な検証は行われていない。未治療進行・再発大腸癌に対する FOLFOX+BV 療法は、実地臨床レベルで安全に施行可能であり、過去の FOLFOX 単剤療法との比較で、PFS、OS ともに有意な延長を示し、MST が 30 ヶ月を超えてきていることが示唆された。

審査会においては、副査清野教授より血管新生阻害に関する bevacizumab の効果の基礎的成果に関する質問があった。副査篠原准教授より、対象に関して、同時性転移と異時性転移で予後に違いがあるかどうかを検討項目に追加すべきではとの指摘を受けた。統計学的方法について、副査佐藤教授より事前の症例数設定の根拠と、結果に有意差がなかった場合はどのように解釈するつもりであったかの質問があった。結果に関して、副査浅香教授より bevacizumab の効果において日本と欧米に差がなくなったと解釈してよいかとの質問と、主査秋田教授より人種差による治療効果の差についての質問があった。申請者は自らの研究データや文献的考察により概ね妥当に回答した。

本研究は未治療進行・再発大腸癌に対するFOLFOX+BV療法は安全に施行可能であり、過去のFOLFOX療法との比較においてPFS、OSともに有意な延長を示し、本邦の日常診療レベルでの生存成績が欧米に追いついてきたことが示唆された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。